

— 森のニュース 1 —

神奈川県産木材の利用について



はじめに

近頃では、東京オリンピック・パラリンピックの国立競技場での木材利用が話題になるなど、”建築物にもっと木材を使おう”、”日本の木の文化をアピールしよう”といった機運が高まりつつあるようです。

また、木材のバイオマス利用を進める取組は、全国的なトレンドになっています。

そこで、神奈川県では県産木材についてどのような取組をしているのか、お伝えしようと思います。



神奈川県の素材生産の状況

神奈川県では、昭和 50 年度には 4 万 5 千 m^3 あった素材生産量がその後減り続け、平成 15 年度には 4 千 m^3 弱にまで落ち込みました。

その後、森林資源を循環（＝利用）させ、そこで得た対価を森林所有者に還元することで、次の森林整備に繋げていくという考えに基づき、平成 17 年度から間伐材搬出に対する支援を始めとした県産木材の有効活用に向けた取組を開始しました。

これらの取組の結果、平成 27 年度の素材生産量は、2 万 7 千 m^3 となり、これらの約 6 割が柱や梁、合板用等に、4 割が土木資材やチップ等に利用されています。

県産木材の利用に向けた取組

素材生産量を増やすためには、ただ単に山から丸太を出すだけでなく、その丸太をしっかりと加工し、消費されるまでの流れをつくる必要があります。

そのため、山から丸太を出すことへの支援の他、製材工場に必要な木材加工機械の整備への支援を行うとともに、県産木材を使用した木造公共施設の整備などへも支援をしています。



上古沢老人憩いの家

木造公共施設整備への支援は、平成 17 年度から県の単独事業として始まり、今は国の交付金事業を活用して実施しています。

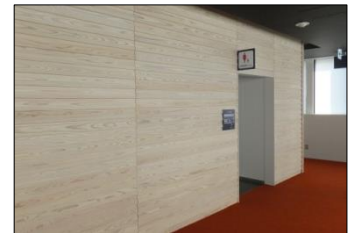
開始当初から 10 年が過ぎ、今では県内 25 市町村に 72 施設が整備されています。



福沢小学校（壁面、床）

平成 27 年度には、県産木材を使用して、厚木市の「上古沢老人憩いの家」が木造で建築され、藤

沢市にある「たかすな保育園」や南足柄市の「福沢小学校」、「横浜市南区総合庁舎」の内装の木質化が図られました。



横浜市南区総合庁舎（壁面）

今後に向けて

多くの県民の皆様が利用する公共施設で県産木材を使えば、県産木材の PR に非常に高い効果をもたらします。

そこで、神奈川県では、公共施設の木造化を推進するため、平成 23 年 12 月に「公共施設の木造・木質化等に関する指針」を策定しました。

市町村の皆様にも指針の策定をお願いしており、現在、16 の市町で策定されています。

市町村が事業主体となって木造公共施設整備の支援を受ける場合には、指針の策定が必須となります。今現在、計画がない場合でも、取組姿勢を示すものですので、策定に向け、前向きに取り組んでいただき、木材利用の促進にご協力いただきますようお願いいたします。

（神奈川県環境農政局緑政部
森林再生課県産木材グループ）